#07_私の愛をあなたの身体に～2 人の愛の囁き＆耳舐め～

★…寧音
◆…望海

★「やっほ～！　遊びにきたよ～！」

◆「もう寧音さん…遊びではなく、お見舞いでしょう？」

★「お医者様から聞いたよ。怪我がどんどん回復していってるって！」

◆「良かったですね。記憶の方は…まだわからないとのことでしたが…」

★「そうだね。でもさ…寧音達もあなたに色々とお世話してきたし…
そろそろどっちが本物の彼女か…わかってきたりした？」
★「わかったっていうか…決まったというか…そんな感じだろうけど…」

◆「寧音さん…それは…」

★「望海さんだって、気になってるでしょう？」

◆「それは…そうですが…」
★「寧音考えたんだ。このままの関係でもいいけれど…
でも…どこかで決着はつけなくちゃいけないって」

◆「それは…私も思うところはありましたが…寧音さんはいいのですか？」
◆「それで…もし、彼女に選ばれなくても？　この関係が終わりを告げても？」

★「元からそういう約束だったからね。
選ばれた方が、正しい恋人になるわけだし。
寂しいけど、素直に諦めるよ」

◆「寧音さん…」
◆「たしかにそうですよね…
そろそろ、決着をつけたほうが良いのかもしれません」

★「そうそう。だから今日は…」

◆「私達２人で…？」

★「うんうん、そういうこと！」

◆「わかりました。では、今回は私達２人で…」

★「あなたを気持ちよくしてあげるね♡」
◆「あなたを気持ちよくします♡」

★「どっちが本物彼女か、見極めてね♡」
◆「どっちが本物彼女か、決めてくださいね♡」

★「ふ〜〜〜♡　ふ〜〜〜♡」
◆「ふ〜〜〜♡　ふ〜〜〜♡」

★「両耳を責められるのはどう？　気持ちいい？」

◆「胸もたくさん押し付けちゃいます♡　こうやって…♡」

★「あなたの体をおっぱいでサンドイッチしちゃうね♡」

★「ふ〜〜〜♡　ふ〜〜〜♡」
◆「ふ〜〜〜♡　ふ〜〜〜♡」

★「それじゃあ、そろそろ…」

◆「直接この舌で…お耳をとろとろにしてあげちゃいましょうか？」

★「そうだね♡　寧音だって、たくさんお勉強してきたからね…こんな風に…」

★「んちゅっ…♡　れろ…♡　んれろ…ちゅっ…むちゅっ…ちゅりゅりゅ…♡
　んはぁ…ふぅ、ふぅ…んりゅ、んりゅりゅりゅ…ちゅっ♡」

◆「私も、負けませんよ？　知識なら、一日の長があります」
◆「はぁむ♡　んれろ…♡　れろろ…んじゅっ…ちゅりゅずじゅ…♡
　んふっ…はふぅ…んふっ…れろ…れろ…んれりゅりゅ…♡」

★「両側からお耳を責められて、気持ちいいね♡」
★「ちゅぷっ…ぷぁっ…んれろ…れろれろ…ずぞぞ～…んじゅ…ちゅりゅ…
　んちゅりゅ…んふっ…はぁ…はぁ…んふっ、ふぅ…♡」

◆「ふふっ…どちらのお耳が気持ちいいですか？　どちらが興奮しますか？」
◆「んじゅりゅ…んりゅ、れりゅ…ふぅ…はぷぅ…れろれろ…んちゅっ…
　んふっ…んれろれろ…れりゅりゅ…ん～ちゅっ♡」

★「あなたが好きだって気持ちを…たくさん感じてくれたら嬉しいな♡」
★「んふっ…はふっ…れりゅ…はぁはぁ…れろれろ…んちゅっ…
　んちゅぅぅぅっ…んふふっ！　んちゅ、じゅりゅぷちゅぅ♡」

◆「好きです…とっても…」
◆「んふっ、はぁっ、あむっ…んじゅりゅりゅ…れろれろ…
　んちゅっ、じゅりゅ…んふっ…はふぅっ！」

★「好き…♡　好き…♡　ちゅっ！」

◆「好きです…♡　好き…♡　ちゅっ！」

★「んちゅっ、ちゅっ！　ちゅりゅりゅ…あむっ…んふっ、
　ふぅ…んりゅりゅ…あむっ…はむっ、ちゅっ♡　ちゅっ♡　ちゅっ♡」

◆「んちゅっ、ちゅっ！　れりゅりゅ…はむっ…んんっ、
　んふぅ…んれれりゅ…はむっ…んむっ、ちゅっ♡　ちゅっ♡　ちゅっ♡」

★「好き♡　好き♡　好き♡　好き♡　好き♡」
◆「好き♡　好き♡　好き♡　好き♡　好き♡」

★「大好き♡　大好き♡　だ～い好き♡」
◆「大好き♡　大好き♡　だ～い好き♡」

★「えへへ…こうして２人で思いを伝えるのってなんだか恥ずかしいかも…」

◆「でも不思議です…いつも以上に、思いを伝えられている気がして…」

★「えへへ…そうかもね。２人分の愛が伝わる…からなのかなぁ？」

◆「その気持ち…どうやら伝わっているみたいですね？」

★「本当だ…おちんちんがびんびんに反り返ってるよ！
　かっこいい…好き♡」

◆「男らしさを感じますね♡　とっても立派です♡」

★「ここまでパンパンになったら、
　おちんちんも気持ちよくしてあげないとだめだよね？」

◆「そうですね…そしたら２人でやりましょうか？」

★「そうだね♡」

★「じゃあ寧音は、こうしてタマタマをモミモミしてあげるね♡」

◆「では私は、竿の方をまんべんなく…シコシコしてあげます♡」

★「お耳を舐められながら、おちんちん気持ちよくなって…」

◆「たぁくさん、濃ゆい精子をどぴゅどぴゅしてくださいね」

★「ふ〜〜〜♡　ふ〜〜〜♡」
◆「ふ〜〜〜♡　ふ〜〜〜♡」

★「んちゅっ…れろ、れろ…んふっ…はぁ…タマタマ…すっごいパンパンだよぉ」
★「この中であなたの精子がたくさん作られているんだよね♡
　んじゅっ、ちゅりゅ…んふっ、れろれろ…ぷはぁ…♡」

◆「ちゅりゅりゅ…はむぅっ♡　れろ、れろ…大きく反り返って…
　いつでも発射準備ができているみたいですね♡」
◆「でもまだまだ我慢…我慢ですからね♡
　んりゅ…れろ…んふぁっ…はぁう、あぁ…んむっ♡」

★「寧音達のおっぱいの感触もどう？
　もっとガシガシ触っていいんだからね？
　はぁ、むぅ、ちゅりゅうぅぅぅっ…♡」

◆「そうですよぉ…あなた専用おっぱい…
　あなたの好きなように…してくださいっ…はふぅっ♡
　んむっ…れりゅ…れろれろ…」

★「寧音達の体を全身で感じて…」

◆「私達にされるがままに…両耳をがっつり咥えられて、
　耳の中をぞりゅぞりゅ舐められて…」

★「おちんちんも２人から触られて…快感たっぷりの中で、
　幸せ射精しちゃおうね♡　はぁ～むぅっ…」

★「んふっ…れろ、れろ…んじゅりゅ…れろんりゅりゅ…♡
　ふむっ…はぁむっ…ぷちゅっ、ちゅっ…れんりゅうぅっ♡」
◆「はぁ…はぁ…むちゅりゅ…んじゅ、れろ、れろれろれろ…♡
　んあっ…はむっ…んじゅるりゅりゅ…んちゅ…ぷぁぁ…♡」

◆「んふふ…お耳だけじゃなくて…全身が真っ赤になっていますね」

★「本当だ！　タマタマもグツグツ～って精子をフル製造している
　感じがする！」

◆「女の子２人に挟まれて、こうもされたら仕方が無いですよね」

★「しかもその相手が、２人ともあなたの恋人候補…♡」

◆「でも、本物の彼女はどちらか１人…ですからね？」

★「そうだよぉ♡　あなたが選ぶんだから…わかってるよね？」

◆「でも…あなたの気持ちが１番ですが…」

★「でも…あなたの気持ちが１番だけど…」
★「寧音を選んでくれると嬉しいな♡」

◆「私を選んでくれると嬉しいです♡」

★「んふっ…んちゅっ、れろれろ…んりゅりゅ…♡
　あむっ…くちゅっ…んちゅ…んへぁっ…♡　あむっ…れっろれろ…♡」
◆「んむっ…あんむっ、れりゅりゅ…んれろれろ…♡
　あむっ…はむっ…んちゅ…んふぅっ…♡　あふっ…れりゅれりゅ…♡」

★「んふふっ…はぁ…はぁ…えへへ、おっぱいに体を埋めてきてる♡
　気持ちいいのが、高まってきたのかな？」

◆「んふっ…はぁ…ふぅ…もうおちんちんの方も大きく膨れ上がって
　暴走寸前って感じですね♡」

★「もう出しちゃう？　もう出ちゃいそう？」

◆「いいんですよ？　出しちゃっても」
◆「私、全力でお手伝いしますから。
　あなたが最高に気持ちのいい射精ができるように♡」

★「寧音も全力サポートするからね！
　快感やばくて飛んじゃうくらいに気持ちよく
　ドピュドピュできるよーに♡」

◆「ほうら…出そうなら、我慢せずに♡」

★「無理せず、本能に従って♡　欲望いっぱいドロドロお汁、出しちゃおう？」

◆「はぁむっ…んふっ、じゅりゅ、じゅりゅりゅりゅりゅ…♡
　んふっ、ちゅっ、れろ⋯んじゅれりゅりゅ⋯あむっ⋯んふっ⋯♡
　あふっ、れろれろ⋯♡」
★「はぁむっ…れりゅれりゅ、んれろ…んちゅっ…♡
　あふっ、んちゅ、んじゅ⋯れりゅりゅりゅりゅ⋯んちゅぅっ⋯ちゅぷ♡
　れろ、れりゅりゅ⋯♡」

◆「ほら、ほら、発射準備…いつでも大丈夫なようですよ？」

★「タマタマの中の精子も、お外出たいよ～って言ってるよ？」

◆「出して♡　出して♡　いっぱい出して♡」

★「あぁ、もう限界っ♡　暴走おちんちん汁⋯出しちゃおう！」

◆「気持ちいいのが…来る♡　来る♡　来ちゃう♡」
★「気持ちよくて…イク♡　イク♡　イッちゃう♡」

◆「出る！　出る！　出る出る出るぅっ♡」
★「イク！　イク！　イクイクイクぅっ♡」

◆「せーの…びゅっびゅっびゅ～～～！」
★「せーの…びゅっびゅっびゅ～～～！」

◆「びゅりゅりゅ～～ぶびゅ、ぶびゅ、びゅりゅりゅ～！」
★「びゅりゅりゅ～～ぶびゅ、ぶびゅ、びゅりゅりゅ～！」

◆「びゅ～！　びゅ～！　びゅ～！」
★「びゅ～！　びゅ～！　びゅ～！」

◆「はぁ…はぁ…こんなにたくさん出るなんて！」

★「寧音達のお手々からも、溢れちゃってる♡
　それにすっごいドロドロだよ♡」

◆「本当に…ゼリーみたい。これがもし手ではない所に出されていたら…
　ゴクリ♡」

★「本当だね。もしそんな時が来たら…わぁぁ♡」

◆「今日もたくさん出してくれてありがとうございます♡　ちゅっ♡」

★「いっぱい出してて、とーってもかっこよかったよ♡　ちゅっ♡」

◆「大好きです♡」
★「大好きだよ♡」